

第 18 回日赤検査学術大会

開催にあたり

第 18 回日赤検査学術大会
大会長 油野 友二
(金沢赤十字病院)



3月の未曾有の大震災。被災者の皆様方に謹んでお見舞い申し上げます。

その惨状に誰もがわが目を疑い、そして言葉を失いました。人間の力をはるかに超えた津波の猛威が多くの人々の命を奪い、困窮する人々を生み出し、そして現代科学技術の最先端と考えられた原発により今なお深刻な状況が続いています。自然の猛威の前での人間の無力さ、はかなさをこれほど感じさせられたことはありません。しかし、私たちは無力感に陥ることなく、人智を尽くし、持てる力を結集してこの災害を乗り越えていかなければなりません。

これまで本社を始め、全国の赤十字施設は総力を挙げて被災地の災害救護活動を展開していますが、今後も救護活動は長期化するものと予想されます。こうした中、第18回日赤検査学術大会は、予定通り平成23年7月16日(土)・17日(日)の2日間にわたり中部ブロックが担当し、金沢・福井両赤十字病院の運営によって北陸の古都・金沢市において開催いたします。

本学術大会のメインテーマは、「**探求と連携 ー今、わたしたちに求められていること、すべきこと**」としました。日々進歩する医療において、臨床検査部門は「探求」の視点をより研ぎ澄まさなくてはなりません。しかし、各検査分野での進歩のみでは、これからの臨床検査室は施設における十分な存在とは言えません。チーム医療による医療の質の向上が求められているなかで、私ども臨床検査技師は患者様のため疾病の病態情報を迅速に、的確に伝え、診療に参画することが必要だと考えます。そのためには検査部内での「連携」、他職種との「連携」が重要です。さらに、私たちは日本赤十字社の一員として、全国医療施設の大きなネットワークがあります。この赤臨技の「連携」を今回のような場面も含めてどのように活用し、強固なものとするべきかについて考える機会になればと思っています。

さて、開催地・金沢は伝統文化の馨りあふれる古都で、多くの伝統文化や伝統芸能があります。それらは、加賀藩の時代に始まったもので、長い年月を経て今に華やかさと雅やかさを伝えていきます。しかし、ひと口に伝統を守るといっても容易なことではありません。人々の生活様式や好みも変化していきます。伝統とは古いものにしがみついただけではなく、新しく創造していくことが必要です。「創造への探求」それが、金沢が輝き続けている理由ではないかと思えます。どうかこの機会に、当地に足を運びいただき、北陸の古都・金沢を堪能していただければと思います。スタッフ一同、全国から多くの皆様方のご来沢を心よりお待ちしております。